

令和7年度上半期 指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	岩野田児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市粟野東1丁目95番地		
指定管理者名	社会福祉法人 中部学院福祉会		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日まで		
選定方法	☒ 公募 ☐ 非公募		
料金制	☐ 使用料 ☐ 利用料金 ☒ 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	16,825,000 円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:1,095.03㎡ ◇延床面積:532.42㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、集会室兼図書学習室、図工室、おもちゃ図書館、事務室兼静養室、駐車場		

●利用状況

		R7 上半期	R6 下半期	R6 上半期	R5 下半期	R5 上半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	8,216	6,793	7,406	6,401	6,710
	移動児童館利用者数	884	526	379	349	335
各室稼働状況	移動児童館実施回数(単位:回)	※15(15)	※12(10)	※15(15)	※14(14)	※19(17)
	開館日数(単位:日)	156	151	154	151	155

※実施回数(施設未設置地区実施回数)

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①・⑤ 計画通り実施。事業については、新規事業の実施により、事業計画書記載の実施予定日から一部変更し、実施している。 ② 所長(常勤・児童厚生員)、主任(常勤職員、体育指導員・児童厚生員)、非常勤職員3名(※1名が児童厚生員)。 ③ 児童センターだより「わくわく」を毎月約3,000枚発行(※近隣の3小学校全児童、全職員に配付。近隣の4幼稚園、2保育園全園児、全職員に配付。岩野田北・岩野田・常磐地区全自治会員宅へ回覧。近隣の3公民館、岐阜市北保健センター、JAぎふ岩野田支店、生活介護事業所アートフィールド、コンビニエンスストア等に配付、施設内配架)。ホームページへも掲載。指定管理者の広報誌にも児童センターでの行事の様子を掲載。 ④ 児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。また、半期に1度、利用者アンケートを実施、詳細な実態を把握後、課題解決に努めている。アンケート結果と対応を、館内廊下2か所に掲示。
自主事業 提案事業		
施設管理	①施設設備の保守点検の実施 ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持	① 適切に実施。 ② 館内清掃を毎朝、全職員で遂行。開館中は、利用者に使用済の玩具を回収箱に入れてもらい、職員が定期的に回収箱を確認、破損等を点検しながら使用された玩具を消毒、利用者が使用できる場所に戻す。オゾン式保管庫も活用。各部屋の出入りのドアノブ、トイレ便座、トイレスリッパ、洗面台等も、定期的に消毒。閉館前には、回収箱内の使用された玩具を、破損等を点検しながら消

	③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	毒、利用者が使用できる場所に戻す。運動用具についても、破損等を点検しながら消毒。週2回は、就労促進事業清掃班による館内清掃。トイレスリッパについては、月1回、消毒液で洗浄、消毒。年3回床のワックスがけ・エアコン清掃・ガラス磨き等を委託業者に依頼、徹底清掃。新型コロナウイルス、感染性胃腸炎や伝染性紅斑、A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ等の感染対策として、上記消毒の徹底、換気、職員・施設利用者の手洗い・手指消毒等、感染防止策を徹底している。 ③ 経費縮減の必要性について全職員で共通理解し、日々勤務する中で、日常業務の一つ一つについて「経費縮減につながる工夫はできないか」「大きな縮減はできなくても、小さな縮減の積み上げが大切」という視点で見直しを進めている。児童用玩具の児童センター職員による自作、事務用品・活動用品等の一括管理と適正在庫管理、こまめな室温・照明の調節、廃材、新聞・チラシ、裏紙等の活用など、全職員で取り組んでいる。備品購入・委託事業等は法人の経営する他施設と一括することで経費の節減を図っている。 ④ 毎朝・夕、施設内外の点検を実施。玩具については、消毒時や片付け時に 1 日複数回点検。破損がある場合は、おもちゃ病院の方に修理を依頼。屋外遊具の定期点検(年2回)実施。
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速・適切な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	① 児童センターの屋内・外環境について、安全・安心・利用しやすさ等の視点で見直し、日々改善を進めている。毎日の点検時に発見した箇所については、速やかに職員の手で修繕し、業者対応が必要な箇所については市担当課に連絡、相談、指定管理者(法人本部)とも相談し方針を決め速やかに対応している。 ② 簡易な修繕については、児童センター職員で対応。必要に応じ、指定管理者(法人本部)にも連絡、相談し、迅速・適切に対応している。
危機管理 法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①～③ 適切に実施。 年度当初、全職員で、各種マニュアル、関係法令等について、内容・対応を確認、共通理解している。安全・安心・利用しやすさ等の視点で、日々の業務を全職員で見直し、随時改善を加えている。改善内容については、スタッフインフォメーションファイル等に記録し、全職員に周知することで、事故・苦情等の防止に活かしている。

●利用者評価

利用者アンケート の実施状況 及び実施結果	<保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート>									
	【期間】		令和7年 6 月 1 日 ~ 8 月 31 日							
	【回答者数】		107 人							
	【校区】		岩野田北: 56 人 岩野田: 24 人 長良西: 8 人 常磐: 4 人 その他市内: 8 人 その他市外: 7 人							
	【年齢】		10 代: 0% 20 代: 6% 30 代: 60% 40 代: 20% 50 代以上: 15%							
	【評価】									
	(あいさつ)		満足: 87% ほぼ満足: 10% 普通: 3% やや不満: 0% 不満: 0%							
	(言葉づかい)		満足: 88% ほぼ満足: 10% 普通: 2% やや不満: 0% 不満: 0%							
	(利用者対応)		満足: 85% ほぼ満足: 11% 普通: 4% やや不満: 0% 不満: 0%							
	(利用しやすさ)		満足: 72% ほぼ満足: 20% 普通: 7% やや不満: 1% 不満: 0%							
	(整理整頓)		満足: 81% ほぼ満足: 15% 普通: 4% やや不満: 0% 不満: 0%							
	(清潔感)		満足: 76% ほぼ満足: 18% 普通: 7% やや不満: 0% 不満: 0%							
	(換気)		満足: 80% ほぼ満足: 14% 普通: 6% やや不満: 0% 不満: 0%							
	○その他アンケートの内容と結果は、別紙のとおり。									
	<小・中・高校生用アンケート>									
	【期間】		令和7年 6 月 1 日 ~ 8 月 31 日							
	【回答者数】		113 人							
	【学年】		小学: 1 年 2 人 2 年 21 人 3 年 18 人 4 年 23 人 5 年 16 人 6 年 25 人 中学: 1 年 3 人 2 年 2 人 3 年 0 人 高校: 1 年 0 人 2 年 3 人 3 年 0 人 無回答: 0 人							
	【学校名】		岩野田北小 75 人 岩野田小 26 人 岩野田中 4 人 その他市内 7 人 その他市外 1 人							
	○その他アンケートの内容と結果は、別紙のとおり。									
利用者からの 要望・苦情と 対処・改善	・駐車場がとめにくい。 ・駐車場がせまく、駐車するとき、少し怖いです。 ⇒駐車スペースにつきまして、ご不便をおかけしており申し訳ありません。現在、駐車スペースの不足が予測される行事開催日については近隣施設の駐車場をご利用いただけるように、他施設の責任者の方への依頼、連携を進めております。駐車スペースでお困りの際は、児童センター職員にお尋ねください。当該日に利用できる他施設の駐車場をご案内させていただきます。よろしくお願いいたします。 ・少し遊具が古く感じました。 ・メルちゃん、レミンちゃんなどの女の子向けのおもちゃ、プラレール(男の子向けのおもちゃ)があるとうれしいです。 ⇒新しい玩具・遊具につきましては、少しずつではありますが順次購入、導入を進めています。今後も、児童センターにあると利用者の方が楽しんで活動できる玩具・遊具があれば、センター職員にぜひお声掛け、ご紹介ください。よろしくお願いいたします。 ・月曜日もやってほしい。金曜日を休みにしてほしい。 ⇒岩野田児童センターの休館日は、岐阜市の規則で定められています。 ご理解、ご協力をお願いします。									
	・洋式トイレがたくさん欲しい。 ⇒トイレの洋式化については、今年度、2階トイレに洋式トイレを設置(※1 階トイレには洋式トイレを設置済)予定です。ご不便をおかけして申し訳ありませんが、設置までもうしばらくお待ちください。よろしくお願いいたします。									

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定 管理者	所管課	評価 委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保 されること	①平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	S	S	S
		②情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表 ・広範で適切な情報提供・広報活動の実施	S	S	S
		区分評価				S
効果性	事業計画書の内容が、 対象施設の効用(設置 目的)を最大限発揮する ものであること	③既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	S	S	S
		④利用者ニーズ、苦情などの把握方法、対応方策及びサービスの質を確保するための体制	・利用者のニーズ、苦情の把握 ・利用者のニーズ、苦情、クレームへの着実な対応・運営への反映	S	S	S
		⑤利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施 ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑥利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑦施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・過不足ない適正な人数配置、無理のない職員体制	S	S	S
		区分評価				S
効率性	事業計画書の内容が、 管理経費の縮減が図ら れるものであること	⑧指定管理経費の妥当性	・収支計画の妥当性及び適正な予算執行	A	A	A
		⑨管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	S	S	S
		区分評価				S
安定性 安全性	事業計画書に沿った管 理を安定して行う物的 能力、人的能力を有して いること	⑩組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体力増進指導に関し知識技能を有する者)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	S	S
		⑪スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・職員の連携体制、職場環境の整備	S	A	A
		⑫スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	S	S	S
		⑬リスクへの対応方策(利用者の安全確保策、防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	S	S
		区分評価				S
貢献性	事業計画書の内容が、 岐阜市あるいは施設が ある特定の地域(以下 「地元」という。)の振 興、活性化などに貢献 できるものであること	⑭地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	S	S	S
		⑮地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	S	S	S
		区分評価				S

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

今期の取組み に対する評価	【公平性・透明性】① ○センター運営上、利用者の思いの把握は重要であり、約3か月(6・7・8月)を調査期間として、アンケート調査を実施した。事前に、小学生以上の児童100名以上、幼児・小学生の同伴者100名以上を目標人数に設定し、入館受付時に、すべての来館者に声を掛け、アンケートの趣旨説明を丁寧に行い調査への協力を依頼した。声をかけたほぼ全員の方に、アンケートの趣旨をよく理解した上で、調査に快く協力していただいた(回答人数⇒児童:113名、保護者:107名)。アンケートの設問内容の理解に不安がある児童については、センター職員が寄り添い、質問内容をわかりやすく説明しながら、回答記入を進めた。アンケート回収時には、多くの同伴者の方から、センター運営について理解ある言葉、励ましの言葉等も掛けていただいた。 ○職員の「あいさつ」については97パーセント、「言葉づかい」については98パーセント、「利用者対応」については96パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「行き帰りともに必ず挨拶していただけ。」「親切な対応をしていただいています。」「子どもの名前を覚えてくださり嬉しかった。」「職員さんが優しいです。」「話しやすい先生で、子育てしていると大人と話す機会が少ないので、色々話せてありがたいです。」「親切、丁寧です。」「いつもあたかく迎えてくださり、ありがとうございます。」「いつもあたかく見守ってくださりありがとうございます。」「いつも優しく対応してくださり、ホッとする時間になっています。ありがとうございます。」「明るく元気にあいさつしてくださりありがとうございます。」「また来たいです。」「いつも丁寧な見守りをありがとうございます。」「クラブで色々な遊びをしていただけるので、いつも楽しませて頂いています。」といった言葉で、センター職員の対応の「よさ」を具体的に評価もしていただいた。 ○施設の「利用しやすさ」については92パーセント、「整理・整頓」については96パーセント、「清潔感」については94パーセント、「換気」については94パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「絵本がたくさんあってよい。」「幼児から小学生の居場所となっていて近所の者としては有り難いです。」「いつも娘達が楽しく利用させてもらい、ありがとうございます。これからよろしく願います。」「日曜日に開館しているのはありがたいです。」「久しぶりに来たらきれいになっていてびっくりしました。」「幼児室とおもちゃ図書館の部屋が変わっていてよかったです。」「絵本が手に取りやすくなりいい感じです。」「置いてあるおもちゃの種類が増えた(少し前)のでうれしいです。」「おもちゃ、絵本、幼児クラブなど、とても助かっています。」といった言葉で、センターの「よさ」を具体的に評価もしていただいた。 一方、「狭いので遊ぶ所が限られる。」「外にも遊具がほしい。」という理由で、1名の方から「やや不満」という評価もいただいている。いただいた評価や、意見・要望については、アンケート結果のまとめに、施設としての対応とその理由を明示し、施設内に掲示、公開するとともに、今後も利用者に対して真摯に対応するよう、職員間で共通理解、意思統一を行った。 ○来館者の利用受付時や退館時を個別に関わることができる(コミュニケーションできる)好機ととらえ、幼児親子や小中高生、同伴者に必ず声を掛け、関係づくりに努めた。小中高生とは、相談内容については他言しないことを約束しながら、気軽に相談できる雰囲気づくりを大切にして関わり、共感的理解と支援、相談児童の居場所づくり、信頼関係づくりに努めた。 ○年度当初に、「子どもたちには多くの遊びに取り組むことで、遊びの楽しさ、仲間と活動することの楽しさを知ってほしい。」という願いを全職員で共有した。「センター利用者に個々の思いで様々な遊びを楽しめる時間を保障する」という意図で遊戯室の利用ルール「いろいろあそびタイム」を設定し、そのルールの定着に努めたり、「〇〇で遊ぼう」というイベントを企画し定期的(1週間に1回)に開催したりすることで、多くの遊びの楽しさが児童の中に広がり、様々な遊びを「好きな遊び」「やってほしい遊び」に回答する児童が増えている。 ○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。 ○岩野田児童センターの運営委員会は、地域の関係機関・団体の代表者20名と、児童センター職員5名の計25名で構成されている。今年度は、8月22日(金曜日)に開催した。 《運営委員会次第》 1. 開会 2. 運営委員・児童センター職員の紹介、委嘱状交付 3. 運営委員長・副委員長の選出 4. 2024年度 岩野田児童センターの運営状況について 5. 2025年度 岩野田児童センターの運営方針・事業計画について 6. 意見交流 7. 閉会 日頃から小中学校や母親クラブ等、地域の関係機関・団体との関係づくりに努め、情報交流を密にしてきたことで、岩野田児童センターの運営状況の説明に時間を要さず、その後の意見交流に十分な時間をとることができた。児童センターでこれまで行ってきた子育て支援や新たに始めた事業等について、一定の評価をいただくとともに、「学校と児童センターが連携を密にし、協力して子どもたちの指導、支援にあたること」や「地域の関係機関との連携をさらに進め、センター行事の充実を図ること」など、センター運営、センター支援に関わる貴重な提案もいただくことができた。 【公平性・透明性】② ○「利用者アンケートの結果・まとめ」を児童センター玄関近くの廊下及び2階廊下の2箇所に掲示し、「アンケート集計結果」と「児童センターとしての回答」の周知に努めている。 ○アンケート結果・まとめには、集計結果とともに、利用者からいただいた意見・要望に対する回答をわかりやすく、具体的に明示した。いただいた貴重な意見・要望については、全職員で真摯に受け止め、実現可能な案件についてはできる限り早く利用者の期待に応えられるように対応策を検討し、実施している。 ○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージ(回答)として、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。
--------------------------	--

	○児童センターだより『わくわく』を、毎月、約3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。 《配付先》 ・エリア内3小学校全児童、全職員に配付 ・エリア内3公民館に配付、館内配架 ・エリア内3幼稚園、2保育園及び近隣1幼稚園(※エリア内在住園児多数在籍)の全園児、全職員への配付 ・(岐阜市)北保健センター、(岐阜市)畜産センター公園に配付、施設内配架 ・山県市図書館・美術館・歴史民俗資料館、文化の里古田郷欽記念館(※岐阜市内在住者の利用多数)に配付、館内配架 ・エリア内3地区全自治会員に回覧 ・JAぎふ岩野田支店に配付、施設内配架 ・生活介護事業所アートフィールドに配付、施設内配架 ・岩野田地区在住の方がオーナーをされている近隣のコンビニエンスストア2店舗に配付、施設内配架 ・(岐阜市)北部コミュニティセンター、長良西公民館に配付、施設内配架 ・ゆりかご成育センター、ピッコロ療育センターに配付、施設内配架 ○岩野田児童センターのホームページを活用し、「施設紹介」「児童センターだより『わくわく』の公開」「ブログによる実施行事の様子紹介」「行事の中止・延期の連絡」「気象警報・強風注意報等発令時の閉館の連絡」等を行っている。 ○昨年度から新たに「ライデン・スクール(メールによる情報配信)」を導入しており、今年度も幼児クラブ参加者にメール受信登録を丁寧に依頼し、システムの活用を進めている。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、センター運営の効率化、利用者の利便性の向上等につながっている。 【効果性】③ ○児童センター内の案内掲示や依頼掲示、活動紹介掲示等を、利用者に「見ていただけるか」「理解していただけるか」、「活動に興味をもっていただけるか」「活動に参加したいと思っていただけるか」等の視点で随時評価し、更新している。壁面装飾についても、季節を感じるものや「読み聞かせ応援コーナー」にある絵本の絵を取り入れるなど、随時、工夫・更新している。また、様々な外部機関から掲示、配架を依頼されるポスターやパンフレット等についても、分類・整理して掲示、配架することで、多くの方に活用していただいている。センターを利用する小中学生や、利用者の同伴者の方からも、「わかりやすい。」「見やすい。」「久しぶりに来たらきれいになっていてびっくりしました。」といった感想をいただいている。 ○センター利用に関わるルール理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い平日の火曜日から金曜日については、職員を3名配置し、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。 また、児童理解や支援の手立てについても、関係図書を事務室に購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となり、OJT形式で職員研修も行うなど、対応を進めている。日々行った児童への支援については、記録ノートに記載し、職員間で共有、累積し、事後支援に活かしている。 ○今年度4月から、小学校で校務員として20年以上勤務した職員1名が新たに加わり、「安全・安心」という視点から児童センターの環境を評価し、改善・整備を進めている。 また、以前から勤務している小中学校や幼稚園・保育園での勤務経験が長く管理職経験もある2名の職員(所長・主任)を中心に全職員で、今年度も児童センターの環境や事務処理、利用者対応等、センターのハード、ソフト両面を例外なく新鮮な目で見直し、随時改善を加えている。上記の「センター内案内掲示や依頼掲示、壁面装飾等の一新」「ポスターやパンフレット等の分類、整理」「利用者への支援に必要な職員配置」「利用者支援に必要な専門性に関わる図書整備や職員研修(OJT)」「職員間で情報共有するための支援記録ノート」、他にも、「遊戯室や図書学習室(集会室)など、各部屋の使用ルールの見直し(安全・利用しやすい・活動機会の公平性から)」「玄関や廊下、おもちゃ図書館、幼児室や図書学習室(集会室)、事務室等の環境整備(安全・利用しやすいから)」「多目的ルームでの事務用品、活動用品等の一括管理(業務の効率化、経費縮減から)」「見直し・改善内容を職員間で情報共有、徹底するためのスタッフインフォメーションファイル」等々、日々、実践を進めている。 ○今年度も、幼児クラブの内容を、子どもの発達・成長につながる「専門的支援」と「継続的支援」の二つの視点で評価し、下記のように実施している。 ▶チューリップクラブ(0歳児):幼稚園・保育園での勤務経験が長い岩野田児童センター職員が、昨年度、ベビーマッサージの講師資格を取得。今年度から担当講師として、上半期・下半期登録制で各5回、ベビーマッサージや親子ふれ合い遊び、絵本の読み聞かせや簡単な親子ダンス、制作などを実施する。 ▶タンポポクラブ(1歳児):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、運動遊び(上半期3回)とリトミック(上半期2回・下半期5回)を実施する。さらに、岩野田児童センター職員が講師となって、季節行事等を上・下半期、各5回実施する。 ▶ヒマワリクラブ(2歳児以上):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、リトミック(上半期5回・下半期2回)と運動遊び(下半期3回)を実施する。さらに、児童センター職員が講師となって、季節行事等を上・下半期、各5回実施する。 ▶スマイルクラブ(1歳児以上・移動児童館):実践経験豊富な外部人材や児童センター職員が講師となって、運動遊びやリトミック、季節行事等を上半期・下半期登録制で各10回実施する。 ○利用者アンケートにご記入いただいた、「父親と参加できるイベントをまた行ってほしいです。」という要望を受け、保護者向け講座を、「パパの子育てクラブ○○○○」や「親子で○○○○」といった名称でも企画、実施し、利用者から好評をいただいている。 ○小学生クラブ(※土曜日・日曜日・祝日に実施)を、活動に参加した児童の意見も参考にしながら全職員で評価、検討、改変し、今年度も継続、実施している。 ▶将棋クラブ(継続):参加者は、活動時間内に、ペアを替えながらたくさんの対局を行っている。将棋を楽しみながら、よい仲間づくりの場にもなっている。
--	---

	▷手芸クラブ(継続):フェルトで作るフォトフレームやスマイルフラワーのチャーム、七夕飾り(壁飾り)、ペットボトルキャップで作る麦わら帽子のブローチや猫のフェルトコースターなどの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。 ▷ドローンクラブ(新規):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、毎月1回、各期6回ずつ実施している。 初めにドローンの基本操作を身に付け、その後の練習で、操作技能の向上を目指している。 ▷クラフトクラブ(継続):トコト歩トコトコペンギンやジャイロコプター、プルバックカーやトントン相撲、ビー玉運びゲームなどの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。 ▷ミニクラフトクラブ(継続):すいすいあがるロケットやブラバンで作るキーホルダー、ミニブーメランやキラキラステンドホイルなどの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。平日の放課後に実施するため、短時間で完成できるよう に事前に職員で材料を加工し、参加者に提供できるよう工夫している。 ○今年度9月から、これまで小学生を対象として実施してきた検定種目(けん玉検定・なわとび検定)に、新たに、「イライラ棒チャレンジ」を新種目として設定し、検定を実施している。イライラ棒チャレンジコースを5種類、手持スティックを4種類、児童の実態に合わせて難易度を考慮し、児童センター職員で工夫、検討を重ねて自作している。 ○昨年度9月から始めている小中学生を対象にした遊び体験会「○○で遊ぼう」を今年度も継続し、新たな遊びを取り入れながら、毎週曜日を変えて平日に1回実施している。参加する児童は、バランスゲームやカロム、3目・4目並べなど、体験したことがない新しい遊びに挑戦したり、異学年の児童や普段一緒に遊ばない児童とも一緒に活動したりして、笑顔で楽しい時間を過ごしている。 ○昨年度に導入した「ライデン・スクール(メールによる情報配信システム)」のメール受信登録を、今年度も幼児クラブ参加者に丁寧に依頼し、システムの活用を進めている。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、センター運営の効率化、利用者の利便性の向上等につながっている。 ○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更されたが、流行は変わらず続いており、感染性胃腸炎や伝染性紅斑、A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどその他の感染症の流行もみられるため、職員が自身で行う健康チェックや予防対策、利用者対応や消毒作業等について、職員打ち合わせでの情報共有を継続し、実践の徹底を図っている。 ○今年度、外部機関や団体、個人と連携し、下記のような新規事業を企画、実施した。 ▷JA コラボ苗箱作り体験 JAぎふ岩野田支店から提案いただき、JAの営農担当の方を講師に、親子を対象として実施した。近隣地域在住の小中学生親子(希望者)との合同の活動でもあり、農業体験だけでなく、地域に住む多くの方との貴重な交流の場ともなった。 ▷ドローンクラブ(小学生クラブ) 近隣地域在住の実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、毎月1回、各期6回ずつ実施している。初めにドローンの基本操作を身に付け、その後の練習で、操作技能の向上を目指している。 ▷紙飛行機を作って飛ばそう 国立大学法人東海国立大学機構航空宇宙生産技術開発センターに講師を依頼し、小学生以上を対象として、よく飛ぶ紙飛行機の制作を実施した。先生や多くの学生に指導、支援していただきながら、親子で制作に取り組み、完成した紙飛行機は広いホールに移動して飛ばした。参加者は、翼の角度や先端のそりを調整しながら、何度も夢中で飛行機を飛ばし、親子で活動を楽しんだ。 ▷アートフィールド(生活介護事業所)の皆さんとの交流(V・わくわく隊) アートフィールドを訪問し、施設利用者の方と一緒に、ちぎり絵に取り組んだり、作業用具の整理をお手伝いしたりして、交流活動をした。 ▷子ども食堂「Oneぱくキッチン」のお手伝い(V・わくわく隊) 子ども食堂「Oneぱくキッチン」を訪問し、食材を切ったり炒めたりして、カレー作りを手伝った。近隣地域在住の小中学生親子や高齢者など、地域に住む多くの方との貴重な交流の場ともなった。 以前から実施している「マジック教室」「親子で楽しくパン作り教室」「笑いヨガ」「トウモロコシの収穫、皮むき&えだまめの収穫で食育体験」「幼児救命救急講習会」「夏休みもの作り教室(風力発電装置)」「夏休み工作教室(ウッドクラフト)」等の行事は、内容をさらに充実させて今年度も継続、実施している。日頃から、近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、交流を深めてきたことで、多くの方の理解と協力を得て様々な行事を開催することができている。 ○以前から勤務している幼稚園・保育園での勤務経験が長い職員が中心となり、幼児クラブとは別に幼児親子を対象として下記のような新規事業を企画、実施した。 ▷足形でこいのぼりを作ろう:足形でこいのぼりを作り、周りを兜やアヤメの花などで飾り、親子でリース作りを楽しんだ。 ▷紙粘土とお花紙でアジサイの花を作ろう:親子で、お花紙で作った花びらを紙粘土で作った台に差し込んでアジサイの花を作り、画用紙に貼り付ける。花の周りに葉やカエル、カタツムリなどを描き、壁飾りを制作する。親子で、絵を描いたり、シールを貼ったりしてペットボトルをかわいく仕上げた。 ▷七夕飾りを作ろう:コーヒーフィルターに水性ペンで模様を描き水を吹き付けて滲み絵にして衣装にしたり、足形を使って流れ星を描いたりして、親子で七夕飾り(壁飾り)作りを楽しんだ。 ▷スタンプ遊びをしよう:レンコンやピーマン、オクラなどの野菜を切って作ったスタンプを使い、金魚鉢の形の画用紙に模様を描き、金魚を貼ることで、親子で楽しく、かわいい金魚鉢の絵を描いた。 ▷フィンガーペイントで遊ぼう:B 紙を何枚もつないで作った広い台紙の上に、手形や足形で模様を描いたり、色を混ぜ合わせることで色の変化を楽しんだりして、親子でフィンガーペイントを楽しんだ。 ▷水風船スタンプで写真立てを作ろう:厚紙で作ったフォトフレームの台紙に、水風船をスタンプや筆のように使って模様を描き、親子で写真立て作りを楽しんだ。
--	---

○遊戯室全体を使うドッジボールやバドミントン、鬼ごっこなどをする時には、その時間、安全面への配慮から遊戯室を他の遊びで使うことができなくなるため、遊戯室の利用について活動時間を区切った事前申込制になっている。特にドッジボールについては、遊戯室という限られたスペースで安全に、楽しく遊ぶために、子どもたちと一緒に話し合い、コートに入る定員を10名とし、やりたい子が10名を超える時には交替でコートに入るようルールを決めて活動している。遊戯室全体を使い多人数で行う遊びに

いては、必ず子どもたちが一緒に遊ぶ仲間の中でリーダーを決め、リーダーを中心に安全に楽しむためのルールを意識し、互いに声を掛け合って活動している。

○児童センターでは、ボランティア活動を行う「V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)」を位置づけている。毎月発行するセンターだよりで参加者を募り、参加者とともに職員も活動し、翌月の活動内容を一緒に考える機会も設けながら、ボランティア活動の対象(※地域を中心に)の広がりや、子どもたちのボランティアに関する意識の醸成を図っている。

○センター職員に児童が話す、「僕、〇〇、得意だよ。」「私、〇〇、できるようになったよ。」という児童の言葉を受けとめ、児童の得意を、児童の自己有用感の向上や、児童相互の交流・仲間づくりに活かすため、けん玉や皿回し、フラフープやルービックキューブなどが得意な児童を「〇〇先生」として児童センター内で位置づけた。「〇〇先生名札」を作成して児童の「できる」を認め、名札を誰も見ることができる2階廊下壁面に掛けておくことで、「〇〇先生」と「遊びを上達したい児童」との交流の機会が生じやすい環境づくりに努めている。

○毎月、「なわとび検定日」と「けん玉検定日」を設け、子どもたちが継続して目標達成に挑戦できる機会を設定している。検定カードには、子どもたちが「目標→努力→達成(できる自分を発見)」のサイクルで練習し、技能を向上できる(自己有用感を実感できる)ように、達成する課題と級を明示し、名人に到達した児童には認定証を作成し事務室前廊下に掲示することで努力を認め、位置づけている。また、9月から新たに、「イライラ棒チャレンジ」を新種目として設定し、検定を実施している。児童センター職員自作のイライラ棒チャレンジコースは5種類、手持スティックは4種類あり、児童の実態に合うよう20段階の難易度を設定して検定を実施している。

【効果性】④

○来館者の利用受付時や退館時を個別に関わることができる(コミュニケーションできる)好機ととらえ、幼児親子や小中高生、同伴者に積極的に声を掛け、関係づくりに努めた。小中高生とは、相談内容については他言しないことを約束しながら、気軽に相談できる雰囲気づくりを大切にして関わり、共感的理解と支援、相談児童の居場所づくり、信頼関係づくりに努めた。

○職員のあいさつや言葉づかい、入館受付や利用案内等について、「明るく・こやかに」に、「親切・丁寧」に対応することを全職員で共通理解し、利用者との関係づくりに努めた。上半期に実施した利用者アンケートでは、職員の「あいさつ」については97パーセント、「言葉づかい」については98パーセント、「利用者対応」については96パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「行き帰りともに必ず挨拶していただける。」「親切な対応をしていただいています。」「子どもの名前を覚えてくださり嬉しかった。」「職員さんが優しいです。」「話しやすい先生で、子育てしていると大人と話す機会が少ないので、色々話せてありがたいです。」「親切、丁寧です。」「いつもあたたかく迎えてくださり、ありがとうございます。」「いつもあたたかく見守ってくださりありがとうございます。」「いつも優しく対応してくださり、ホッとする時間になっています。ありがとうございます。」「明るく元気にあいさつしてくださりありがとうございます。また来たいです。」「いつも丁寧な見守りをありがとうございます。」「クラブで色々な遊びをしていただけるので、いつも楽しませて頂いています。」といった言葉で、センター職員の対応の「よさ」を具体的に評価もしていただいた。

○十分な期間(6月から8月末までの約3か月)をかけてアンケート調査を実施した。事前に、より多くの方の意見を伺いたいというねらいから、小学生以上の児童100名以上、幼児・小学生の同伴者100名以上を目標人数に設定し、入館カード記入時に、すべての来館者に声を掛け、アンケートの趣旨説明を丁寧に言い調査への協力を依頼した。アンケートの設問内容の理解に不安がある児童については、センター職員が寄り添い、質問内容をわかりやすく説明しながら、回答記入を進めた(回答人数⇒児童:113名、保護者:107名)。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。

○上半期に実施した利用者アンケートでは、施設の「利用しやすさ」については92パーセント、「整理・整頓」については96パーセント、「清潔感」については94パーセント、「換気」については94パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「絵本がたくさんあってよい。」「幼児から小学生の居場所となっていて近所の者としては有り難いです。」「いつも娘達が楽しく利用させてもらい、ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。」「日曜日に開館しているのはありがたいです。」「久しぶりに来たらきれいになっていてびっくりしました。」「幼児室とおもちゃ図書館の部屋が変わっていてよかったです。」「絵本が手に取りやすくなりいい感じです。」「置いてあるおもちゃの種類が増えた(少し前)のでうれしいです。」「おもちゃ、絵本、幼児クラブなど、とても助かっています。」といった言葉で、センターの「よさ」を具体的に評価もしていただいた。

一方、「狭いので遊ぶ所が限られる。」「外にも遊具がほしい。」という理由で、1名の方から「やや不満」という評価もいただいている。いただいた評価や、意見・要望については、アンケート結果のまとめに、施設としての対応とその理由を明示し、施設内に掲示、公開するとともに、今後も利用者に対して真摯に対応するよう、職員間で共通理解、意思統一を行った。

・「狭いので遊ぶ所が限られる。」という意見に対しての対応

⇒現在、児童センターを拡張する工事の予定はありません。ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いします。

・「外にも遊具がほしい。」という意見に対しての対応

⇒児童センターの外には運動広場と駐車場・駐輪場があります。現状、それぞれを安全に利用していただけるスペースを考慮すると、遊具を新設できる余裕がありません。ご理解、ご協力をお願いします。

○来館された利用者の方に児童センター職員から積極的に関係づくりに努めるとともに、会話する中でそれぞれの思いやニーズを把握し対応することで、信頼関係づくりに努めた。幼児の同伴者の方からいただいた要望をもとに児童センター内に設置した「幼稚園・保育園情報コーナー」については、情報提供園の増加・充実と、利用者

の情報活用が進んでいる。また、近隣地域在住の専門家の方の協力を得て設置した「発達・子育て相談」ができる場についても、利用者への周知が進み、活用方法の問い合わせがセンターに届くようになっている。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱（複数）を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。

○昨年度から新たに「ライデン・スクール（メールによる情報配信）」を導入しており、今年度も幼児クラブ参加者にメール受信登録を丁寧に依頼し、システムの活用を進めている。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、センター運営の効率化、利用者の利便性の向上等につながっている。

○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い平日の火曜日から金曜日については、職員を3名配置し、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

また、児童理解、支援の手立てについても、関係図書を事務室に購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となり、OJT形式で職員研修を行うなど、対応を進めている。日々行った児童への支援については、記録ノートに記載し、職員間で共有、累積し、事後支援に活かしている。

○児童センターに来館する誰もが、安心して楽しく児童センターを利用できるように、活動できるように、1階遊戯室と2階図書学習室（集会室）の利用ルールを下記のように決め、理由を具体的に示しながら子ども達に分かりやすく丁寧に繰り返し説明し、ルールの徹底を図った。

【遊戯室】
「たくさんの子」が「たくさん遊び」を遊戯室で楽しめるように、下記の二つの時間を設定し、遊戯室全体を使った遊びを楽しむ「〇〇〇タイム」の後には必ず「いろいろ遊びタイム」を位置づけている。
・いろいろ遊びタイム
⇒「皿回し」や「けん玉」、「フラフープ」や「ディアボロ」など、遊戯室全体を使わない様々な遊びをみんなで楽しむ時間。
・〇〇〇タイム（例：ドッジボールタイム、バドミントンタイム等）
⇒「ドッジボール」や「バドミントン」、「鬼ごっこ」など、遊戯室全体を使った遊びを楽しむ時間。

【図書学習室（集会室）】
利用者全員がやりたい活動に集中できるように、図書学習室（集会室）を可動式の衝立等を利用して、下記の二つの優先スペースに分けている。
・遊び優先スペース ・学習優先スペース

【効果性】⑤
○児童センターから遠い常磐地区の児童の利用を確保するために、魅力ある活動内容を工夫、準備し、毎月2回以上の開催を原則として、移動児童館事業にも力を入れている。

【実施回数】
4月⇒常磐地区1回実施
5月⇒常磐地区3回、岩野田地区1回、岩野田北地区1回、市外（山県市高富）1回実施
6月⇒常磐地区4回、市外（山県市高富）2回実施
7月⇒常磐地区2回、市外（山県市高富）2回実施
8月⇒常磐地区1回、岩野田北地区1回実施
9月⇒常磐地区3回実施

【実施内容】
・親子で幼稚園・保育園見学、活動体験（指導者：幼稚園・保育園、児童センター職員）
・苗箱作り体験（指導者：JA ぎふ岩野田支店職員、児童センター職員）
・小学生ボランティア「V・わくわく隊」（指導者：アートフィールド職員、友愛会職員、児童センター職員）
・楽しく親子でパン作り教室（指導者：外部講師、児童センター職員）
・運動遊び（指導者：外部講師、児童センター職員）
・リトミック（指導者：外部講師、児童センター職員）
・笑いヨガ（指導者：外部講師、児童センター職員）
・飛行機を作って飛ばそう（指導者：国立大学法人東海国立大学機構航空宇宙生産技術開発センター職員、児童センター職員）
・感触遊び、親子ふれ合い遊び、畜産センターで遊ぼう（指導者：児童センター職員） 等

○職員のあいさつや言葉づかい、入館受付や利用案内等について、「明るく・にこやか」に、「親切・丁寧」に対応することを全職員で共通理解し、日々実践を継続している。上半期利用者アンケート回答者の96～98パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただき、センター職員の対応のよさを具体的意見でも評価していただいた。

○児童センター内の案内掲示や依頼掲示、活動紹介掲示等を、利用者に「見ていただけるか」「理解していただけるか」、「活動に興味をもっていただけるか」「活動に参加したいと思っていいただけるか」等の視点で随時評価し、更新している。壁面装飾についても、季節を感じるものや「読み聞かせ応援コーナー」にある絵本の絵を取り入れるなど、随時、工夫・更新している。また、様々な外部機関から掲示、配架を依頼されるポスターやパンフレット等についても、分類・整理して掲示、配架することで、多くの方に活用していただいている。センターを利用する小中学生や、利用者の同伴者の方からも、「わかりやすい。」「見やすい。」「久しぶりに来たらきれいになっていてびっくりしました。」といった感想をいただいている。

○昨年度に導入した「ライデン・スクール（メールによる情報配信システム）」のメール受信登録を、今年度も幼児クラブ参加者に丁寧に依頼し、システムの活用を進めている。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、センター運営の効率化、利用者の利便性の向上等につながっている。

	○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱（複数）を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くに掲示し、利用者にお知らせしている。 ○来館者入館時に事務室内でチャイムが鳴るように機器を設置し、利用者が複数の幼児を連れた幼児親子さんの時など支援を必要とされる場合は、玄関ドアを開け安全でスムーズに入館できるように援助している。退館時にも、同様に玄関ドアの開閉をお手伝いしている。 【効果性】⑥ ○児童センターだより「わくわく」を毎月約3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。 ○児童センターのホームページを作成、活用し、「施設紹介」「児童センターだより『わくわく』の公開」「ブログによる実施行事の様子紹介」等を行っている。 ○昨年度に導入したライデン・スクール（メールによる情報配信）を活用して、センターから幼児クラブ参加者に、センター事業の紹介、参加案内を行っている。 ○近隣にある児童発達支援施設や放課後等デイサービス施設、生活介護事業所や住宅型有料老人ホーム施設等とも連携を図り、参加しただけそうな行事については個別に声を掛け、利用を勧めている。 児童発達支援…ゆりかご育成センター、ピッコロ療育センター等 放課後等デイサービス…あんじゅ、ゆりかご育成センター、ピッコロ療育センター等 生活介護事業所…アートフィールド等 住宅型有料老人ホーム施設…You & I(ゆうあいの森)いわのだ等 【効果性】⑦ ○岩野田児童センターに現在在籍する職員は常勤2名、非常勤3名の計5名である。そのうち3名が児童センター仕様書に記載されている「児童厚生員」の要件を満たしている。さらに、幼稚園教諭、保育士、小中・養護学校教諭等の免許を有する職員が2名在籍し、幼稚園、保育園、小中学校での経験も豊富であり、管理職経験も有している。さらに今年度4月から、小学校で校務員として20年以上勤務した職員1名が新たに加わり、「安全・安心」という視点から児童センターの環境を評価し、改善・整備を進めている。昨年度から勤務している職員を含め、児童センターの子どもたちへの指導・支援体制はさらに厚くなっている。 ○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い火曜日から金曜日については、職員配置を3名とし、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。 【効率性】⑧ ○岩野田児童センターの収支管理を担う社会福祉法人中部学院福祉会は、岐阜市の民営化第1号の常磐保育園を経営しており、毎年、岐阜市の監査、指導を受け、適格に予算を執行している。また、中部学院福祉会の理事会が年4回、評議員会が年2回開催され、その都度、収支や施設運営についての的確な指導、助言もいただいている。 【効率性】⑨ ○今年度も、電気料金や燃料費等の高騰による経費圧迫を見据え、児童センターでは、経費削減の必要性について全職員で共通理解し、日々勤務する中で、日常業務の一つ一つについて「経費削減につながる工夫はできないか」「大きな削減はできなくても、小さな削減の積み上げが大切」という視点で見直しを進めている。 《具体的実践例》 ・児童（小学生以上）が利用する玩具を児童センター職員で自作することで、経費削減を図っている。 【今年度制作した玩具】 コリントゲーム（5セット）、ゆらゆらボールゲーム（1セット）、ゆらゆらビー玉迷路ゲーム（1セット）、ビー玉送りゲーム（1セット）、検 定用イライラ棒（コース5種類、スティック4種類）、練習用イライラ棒（コース2種類、スティック1種類2本）等 ・事務室、遊戯室倉庫、おもちゃ図書館倉庫、階段下倉庫、多目的ルームで管理していた各種事務用品、活動用品等を多目的ルームで一括管理し、業務の効率化と適正な在庫管理による経費削減を図っている。 ・作品材料として、牛乳パック、ペットボトルキャップ、ペットボトル容器、各種テープ類やラップの芯、各種ペーパー類の空き箱等を捨てずに児童センターで保管したり、職員が自宅から持ち寄ったりして、安心・安全に配慮しながら、センターで行う行事を低コストで実施できるよう、日々対応している。 ・紙ベースで配付していた職員のシフト表や各種連絡事項等を、ライデン・スクール（メールによる情報配信）を活用してデータで配信するように変更、ペーパーレス化を進めている。 ・紙ベースで配付していた幼児クラブの参加案内を、ライデン・スクール（メールによる情報配信）を活用してデータで配信するように変更、ペーパーレス化を進めている。 ・赤ちゃんステーションとして利用者に提供する準備をしているミルクのお湯を、電気ポットではなく、保温時間がなく節電につながる電気ケトルで用意している。 ・児童が利用した後、センター屋内・外にある手洗い場の蛇口が完全に閉められていないことがあるため、頻繁に職員が点検・確認し、節水に努めている。 ・センター利用者がいない場合は、廊下や各部屋の照明を、外光が差さない側の一部のみに点灯しておくようにし、センター利用者の入館しやすさを損なわない程度に節電に努めている。 ・各種行事の企画にあたって、費用負担が軽減できる中部学院福祉会の関係機関や団体との連携をまず検討し、その他の外部機関・団体や近隣地域在住の方との連携についても、できる限り少ない費用負担で協力いただけるよう連携相手との打ち合わせを行っている。
--	--

【安定性・安全性】⑩

○現在、児童厚生員3名、体育指導員1名を配置している。

○岩野田児童センターに現在在籍する職員は常勤2名、非常勤3名の計5名である。そのうち3名が児童センター仕様書に記載されている「児童厚生員」の要件を満たしている。さらに、幼稚園教諭、保育士、小中・養護学校教諭等の免許を有する職員が2名在籍し、幼稚園、保育園、小中学校での経験も豊富であり、管理職経験も有している。さらに今年度4月から、小学校で校務員として20年以上勤務した職員1名が新たに加わり、「安全・安心」という視点から児童センターの環境を評価し、改善・整備を進めている。昨年度から勤務している職員を含め、児童センターの子どもたちへの指導・支援体制はさらに厚くなっている。

○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い火曜日から金曜日については、職員配置を3名とし、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

【安定性・安全性】⑪

○今年度4月から、小学校で校務員として20年以上勤務した職員1名が新たに加わり、「安全・安心」という視点から児童センターの環境を評価し、改善・整備を進めている。

また、以前から勤務している小中学校や幼稚園・保育園での勤務経験が長く管理職経験もある2名の職員(所長・主任)を中心に全職員で、今年度も児童センターの環境や事務処理、利用者対応等、センターのハード、ソフト両面を例外なく新鮮な目で見直し、随時改善を加えている。上記の「センター内案内掲示や依頼掲示、壁面装飾等の一新」「ポスターやパンフレット等の分類、整理」「利用者への支援に必要な職員配置」「利用者支援に必要な専門性に関わる図書整備や職員研修(OJT)」「職員間で情報共有するための支援記録ノート」、他にも、「遊戯室や図書学習室(集会室)など、各部屋の使用ルールの見直し(安全・利用しやすい・活動機会の公平性から)」「玄関や廊下、おもちゃ図書館、幼児室や図書学習室(集会室)、事務室等の環境整備(安全・利用しやすいから)」「多目的ルームでの事務用品、活動用品等の一括管理(業務の効率化、経費縮減から)」「見直し・改善内容を職員間で情報共有、徹底するためのスタッフインフォメーションファイル」等々、日々、実践を進めている。

特に、増加傾向にある発達に課題を抱え、配慮を必要とする児童の理解、支援の手立てについては、関係専門図書を事務室に複数購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となり、日々OJT形式で、職員研修を行うなど、対応を徹底している。日々行った児童への支援については、上記の支援記録ノートに記載、累積し、その後の支援に活かしている。さらに、それぞれの毎月の勤務日数が11日前後の非常勤職員が3名在籍し、連携は課題であり、「常勤職員と非常勤職員との連携を密にすること」「支援記録ノートやスタッフインフォメーションファイルへの記載を実践につなげるよう理解しやすい内容とすること」等、職員間の日々のコミュニケーションや、コミュニケーションツールを工夫・活用することで、課題改善、職員連携体制の構築、充実を図っている。

○事務室で経年管理していた資料・文書や事務用品・活動用品等を多目的ルームで管理、保管することとし、事務室内のスペース活用の効率化を図っている。

○事務室で使用頻度の高いパソコン3台に大型モニターを設置し、2台のモニター(既存のモニターと大型モニター)を使用した事務処理を可能としている。

○事務室内に置かれている様々な物品の配置を、その「用途」や「使用頻度」、「現在の配置が他の業務に与える影響」等の視点で、再度全職員で確認、検討し、物品を配置する棚等をセンター職員で設計、自作することで、事務室環境の改善・向上を図った。

【安定性・安全性】⑫

○自己研修やOJTの推進を図るハード、ソフト両面の環境整備

「遊びによる子どもの育成」「子どもの居場所の提供」「配慮を必要とする子どもへの対応」等、児童センターが担う業務と関わる専門図書を事務室に複数購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員2名が講師となり、日々OJT形式で職員研修を行うなど、対応を徹底している。日々行った児童への支援についても、それぞれ専用の記録ノートに記載、累積、全職員で共有し、その後の支援に活かしている。

○新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に変更されて以降は、これまで控えていた集合形式で行われる研修会についても、業務日程を調整し、積極的に参加している。

《児童センター職員が参加した研修会》

・岐阜保育研究会「保育者のための実践講座」

人の印象の心理学 ～対人援助における相手理解の手がかりとして～ 職員2名参加

【安定性・安全性】⑬

○市の方針にもとづき作成、活用している「非常災害対策計画」を年度当初に見直し、必要な修正を加え、緊急時に対応できるよう職員研修を行い、その内容について全職員で共通理解した。

1. 施設の立地条件 2. 災害に関する情報の入手方法 3. 災害時の連絡先及び通信手段の確認

4. 避難を開始する時期、判断基準 5. 避難場所、避難経路 6. 避難方法

7. 避難誘導の必要な資材 8. 災害時の人員体制 9. 関係機関との連携

10. 防災教育及び訓練の実施

○年度当初、岩野田児童センターの「社会福祉施設避難確保計画」をもとに、緊急時に対応できるよう職員研修を行い、その内容について全職員で共通理解した。

1. 計画の目的 2. 計画の報告 3. 計画の適用範囲 4. 防災体制 5. 情報収集・伝達 6. 避難誘導

7. 避難の確保を図るための施設の整備 8. 防災教育及び訓練の実施 9. 自衛水防組織の業務に関する事項

10. 防災教育及び訓練の年間計画 11. 緊急連絡網 12. 外部機関等の緊急連絡先一覧表 13. 防災体制一覧表

14. 自衛水防組織活動要領 15. 自衛水防組織の編成と任務 16. 自衛水防組織装備品リスト 17. 施設周辺の避難地図

	○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更されたが、感染性胃腸炎や伝染性紅斑、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどその他の感染症の流行もみられるため、これまで実施してきた感染症対策を基本に対応を職員で共有、徹底している。特にセンター職員及びセンター利用者の体調確認、手洗い・消毒、換気等、基本的感染対策については確認と働き掛けを徹底して行っている。 ○児童センター内外を、「リスク防止」の視点で点検、確認し、事故の未然防止に努めている。新型コロナ等感染防止のための消毒・換気、玩具・運動用具・遊具等の安全点検、コーナークッションの貼付、コンセントカバーの取付、運動用具保管方法の見直し、事故防止のための注意喚起掲示の工夫・設置等、「まだ、すべきことがある」という意識で、全職員で、リスク防止、対応に努めている。 ○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更されたが、感染性胃腸炎や伝染性紅斑、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどその他の感染症の流行もみられるため、これまで実施してきた感染症対策を基本に対応を職員で共有、徹底している。特にセンター職員及びセンター利用者の体調確認、手洗い・消毒、換気等、基本的感染対策については確認と働き掛けを徹底して行っている。 ○児童センターの「非常災害対策計画」について、年度当初に職員研修を行い、その内容について全職員で共有した。 ○児童センターの「社会福祉施設避難確保計画」について、年度当初に職員研修を行い、その内容について全職員で共有した。 ○上記のマニュアルの他、センターで作成済の各種緊急時対応マニュアルについては、事務室内の確認しやすい場所に保管している。また、運動事故対応や新型コロナ等感染対応等については、対応のポイントをまとめたものを、職員がすぐ手に取りやすい場所に置き、職員の自己研修と危機管理に対する意識、対応力の向上を図っている。 【貢献性】⑭ ○「たからぼこ」「おはなしポケット」「コッコのおはなし」「おもちゃ病院」等、地元の諸団体の方に、定期的に活動をしていただいている。各団体の活動予定については、活動日の前月に発行する児童センターだより「わくわく」に掲載し、紹介している。 ○児童センターだより「わくわく」を毎月約3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。 ○今年度、外部機関や団体、個人と連携し、下記のような新規事業を企画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。 ○岩野田青少年育成市民会議家庭部会から依頼を受け、幼児親子(対象児童年齢:0歳、1歳)を対象にして、「風船を使った親子ふれ合い遊び」を行った。また、「ママたちとおしゃべりタイム」にもアドバイザーとして参加した。 ○児童センター近隣の児童発達支援施設(ゆりかご育成センター、ピッコロ療育センター等)、放課後等デイサービス施設(あんじゅ、ゆりかご育成センター、ピッコロ療育センター等)と連絡を取り合い、児童センターの利用推進を図っている。 ○児童センター近くにある住宅型有料老人ホーム施設(You & I の森 いわのだ)と連絡を取り合い、施設入居者の児童センター行事への参加、児童センター利用者との交流を随時行っている。 ○児童センター近くにある生活介護事業所(アートフィールド)と連絡を取り合い、施設利用者と児童センター利用者(v・わくわく隊)との交流を随時行っている。 【貢献性】⑮ ○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更されたが、感染性胃腸炎や伝染性紅斑、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどその他の感染症の流行もみられるため、地元行事への参加については「参加者の安全・安心」を最優先に、慎重に判断し決定している。今年度上半期は、児童センター近くにある住宅型有料老人ホーム施設と連絡を取り合い、施設入居者の児童センター行事への参加、児童センター利用者との交流について情報交換を行っている。 ○児童センターだより「わくわく」を毎月約3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。 ○今年度、外部機関や団体、個人と連携し、下記のような新規事業を企画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。
前回までの意見を踏まえた取組み状況	○今年度も、幼児クラブの内容を、子どもの発達・成長につながる「専門的支援」と「継続的支援」の二つの視点で評価、改善し、実施している。詳細は【効果性】③に記載済み。 ○以前から勤務している幼稚園・保育園での勤務経験が長い職員が中心となり、幼児クラブとは別に幼児親子を対象として「リース作り」や「七夕飾り作り」等、新規事業を企画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。 ○昨年度新設した小学生クラブ(※土曜日・日曜日・祝日に実施)を、活動に参加した児童の意見も参考にしながら全職員で評価、検討、改変し、今年度も継続、実施している。詳細は【効果性】③に記載済み。 ○今年度も、外部機関や団体、個人と連携し、「JA コラボ苗箱作り体験」や「紙飛行機を作って飛ばそう」等、新規事業を企画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。日頃から、近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、交流を深めてきたことで、多くの方の理解と協力を得て様々な行事を開催することができている。 ○児童センターから遠い常磐地区の児童の利用を確保するために、魅力ある活動内容を工夫、準備し、毎月2回以上の開催を原則として、移動児童館事業にも力を入れている。詳細は【効果性】⑤に記載済み。 ○児童センターでは、ボランティア活動を行う「v・わくわく隊(小学生ボランティア隊)」を位置づけている。毎月発行するセンターだよりで参加者を募り、参加者とともに職員も活動し、翌月の活動内容も一緒に考えながら、ボランティア活動の対象(※地域を中心に)の広がりや、子どもたちのボランティアに関する意識の醸成を図っている。
今後の取組み	○来期も継続して近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、利用者のニーズに合った行事を企画、開催していきたい。また、既存の連携行事についても参加者の意見を参考に内容の改善、

充実を進めたい。地域の様々な人と連携した行事を実施し、ブログ等でも紹介しながら、児童センターとの連携について地域の理解をさらに広めていきたい。

○来期も継続して、日々利用者ニーズの把握に努め、児童センター職員の経験を活かしながら新しい活動や行事の企画、運営を推進したい。

○来期も継続して、V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)の活動の充実を図っていきたい。「地域との関わり」を大切に活動を仕組み、V・わくわく隊のメンバーの達成感とボランティア活動への意欲をさらに高めていきたい。

●所管課の意見

○各種幼児クラブの時間中に読み聞かせを取り入れ、絵本に親しむ取り組みを行っている点が評価できる。

○遊戯室で安全に楽しく遊ぶために、子どもたちと一緒に話し合い、ルールを決めて利用している。また、大人数で遊ぶときは、リーダーを決め、お互いに声を掛け合って利用するようにさせるなど子どもに主体的に活動する場が設けられている。

●指定管理者評価委員会の意見

○幅広い団体と連携し、新規事業の企画実施に積極的に取り組むとともに、利用者に応じた柔軟な対応をしている点は評価できる。

○その他、すべての評価項目が業務要求水準以上となっており、適正に管理運営が行われている。